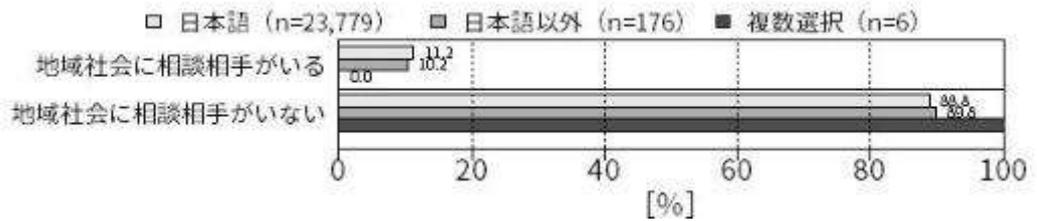


日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

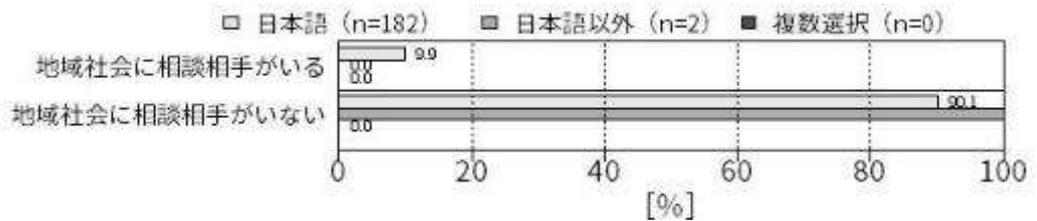


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語以外で回答した人が2人と少なく、傾向を述べることはできない。

## <家庭生活・学習に関する考察>

家庭生活・学習について、困窮度の視点から結果を述べる。まず、おうちの大人との関わりを見ると、困窮度が高くなるにつれて、朝食を一緒に摂ることが「ほとんど毎日」と回答する割合が減少する。また宿題をみてもらう、一緒に文化活動をするに関しては困窮度を問わず「ほとんどない」または「まったくなく」と回答する割合が少なくとも6割程度存在した。次に子どもの学習については、困窮度が高まるにつれて、1日当たりの勉強時間に関し「まったくしない」と回答する子どもの割合は増加する傾向にあり（中央値以上群では7.9%、困窮度Ⅰ群では18.6%）、それに関連して学校の勉強について「あまりわからない」「ほとんどわからない」と回答する子どもの割合が増加する（中央値以上群では9.5%、困窮度Ⅰ群では25.6%）。

また、生活習慣との関連で勉強と読書の習慣を見ると、起床時間が決まっていない子ども、朝食を摂るのが週5回以下の子どもにおいては、勉強・読書ともに「まったくしない」・「30分より少ない」回答の割合が高く、特に同じ時刻には起きていない子どもにおいては、授業以外の勉強時間は「まったくしない」と回答した割合は31.8%と高かった（同じ時刻に起きている群は11.1%）。

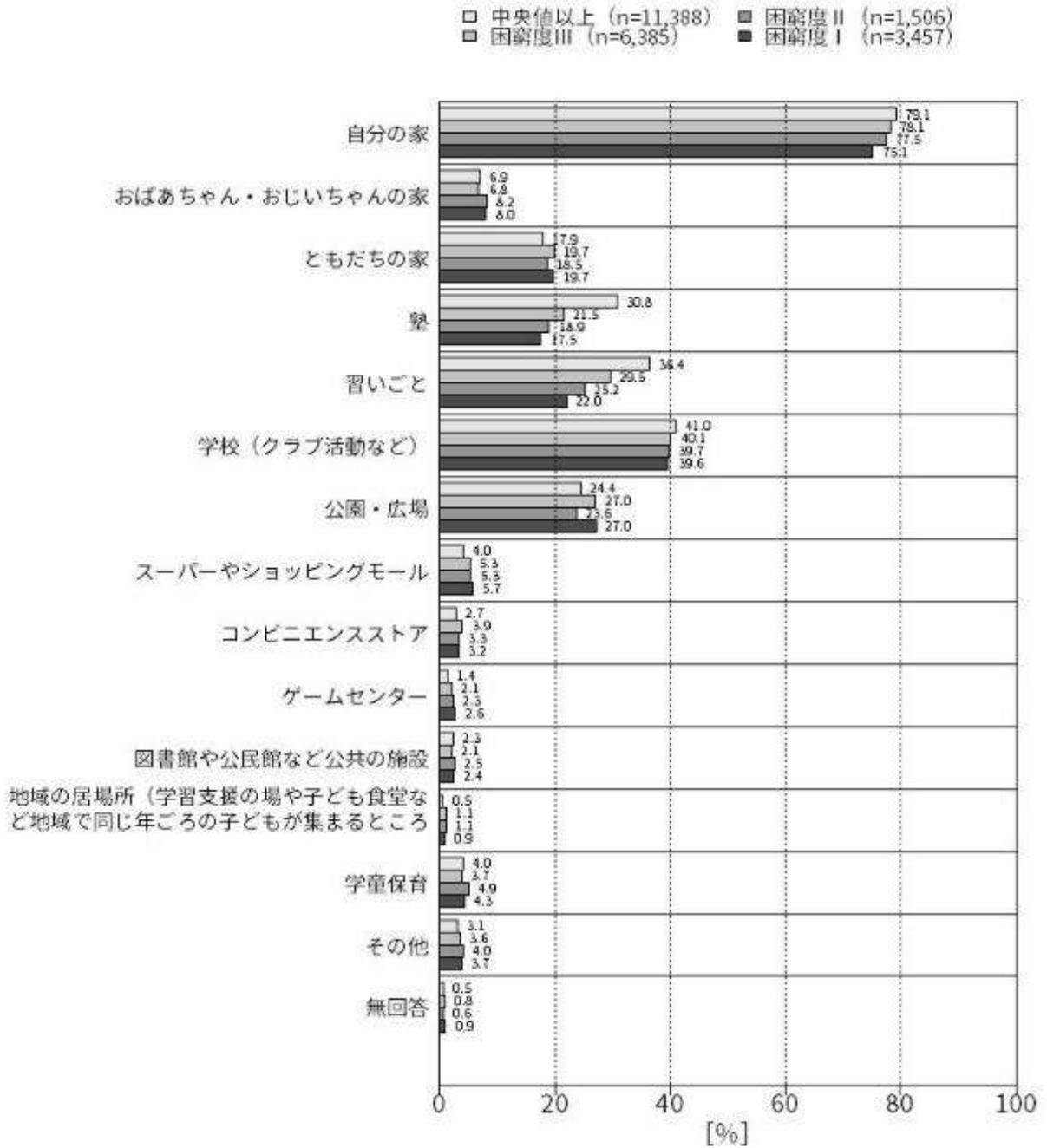
子どもの将来に関して、困窮度が高まるにつれて「考えたことがない」と答える子どもの割合が増加する傾向にあった（中央値以上群では7.9%、困窮度Ⅰ群では9.3%）。保護者の回答では困窮度が高まるにつれて「大学・短期大学」までと答える割合が減少し（中央値以上群では68.8%、困窮度Ⅰ群では45.7%）、「高校」までと答える割合が増加する（中央値以上群では21.9%、困窮度Ⅰ群では34.8%）傾向にあった。

子どもの遅刻状況について「遅刻はしない」と答えた割合は、困窮度Ⅱ群を除きいずれの群においても70%程度であった。週1回以上遅刻する子どもに着目すると、保護者と子どもの関わりにおいて、朝食を一緒に食べたり、夕食を一緒に食べたり、学校の話をしたり、社会の話をしたりすることが「ほとんど毎日」と回答する割合が、遅刻はしない群に比べ低かった。また遅刻はしない群に比べて週1回以上遅刻する子どもは「おうちのこと」「学校や勉強のこと」「自分のこと」「友だちのこと」で悩んでいることが多かった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



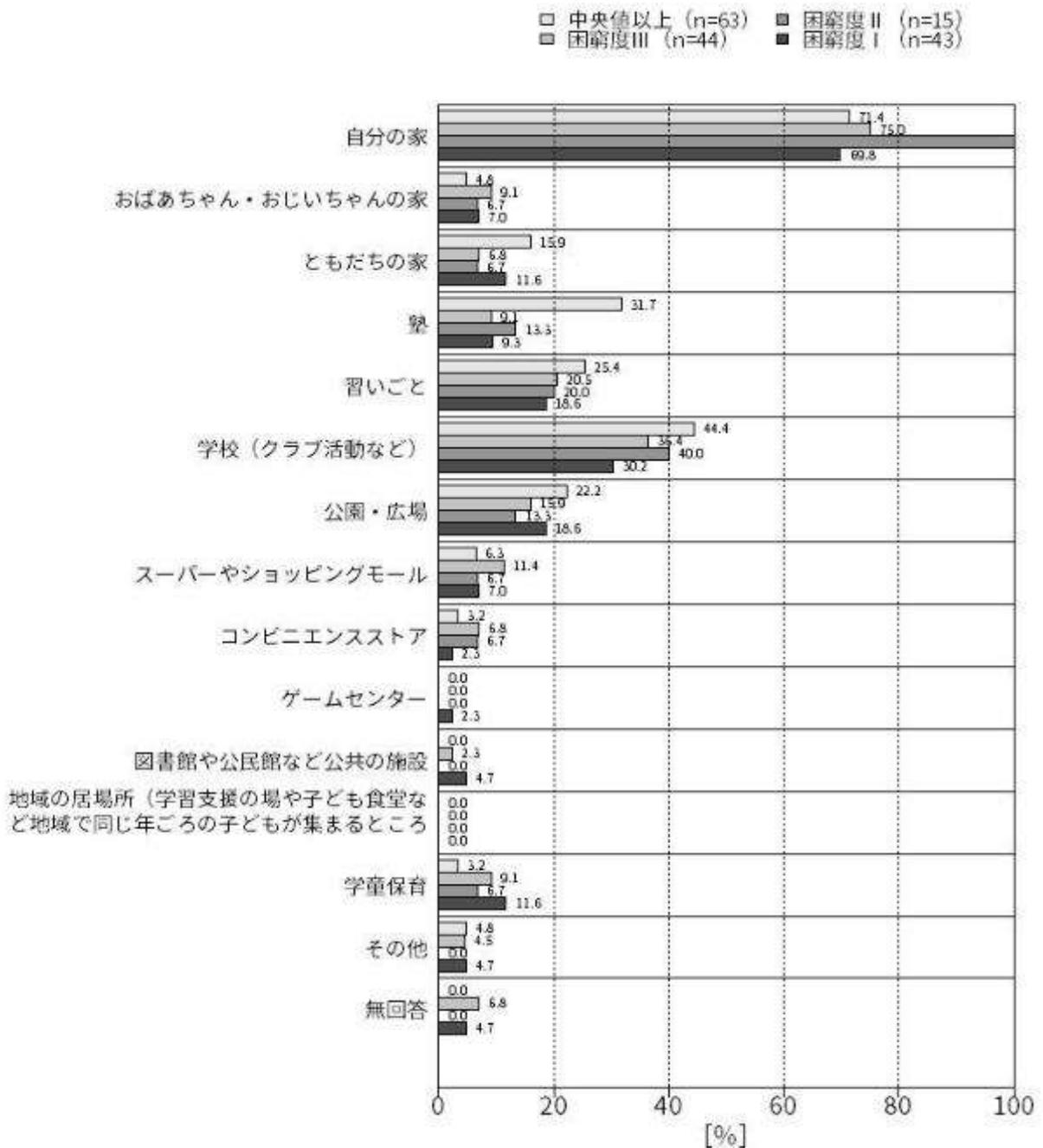
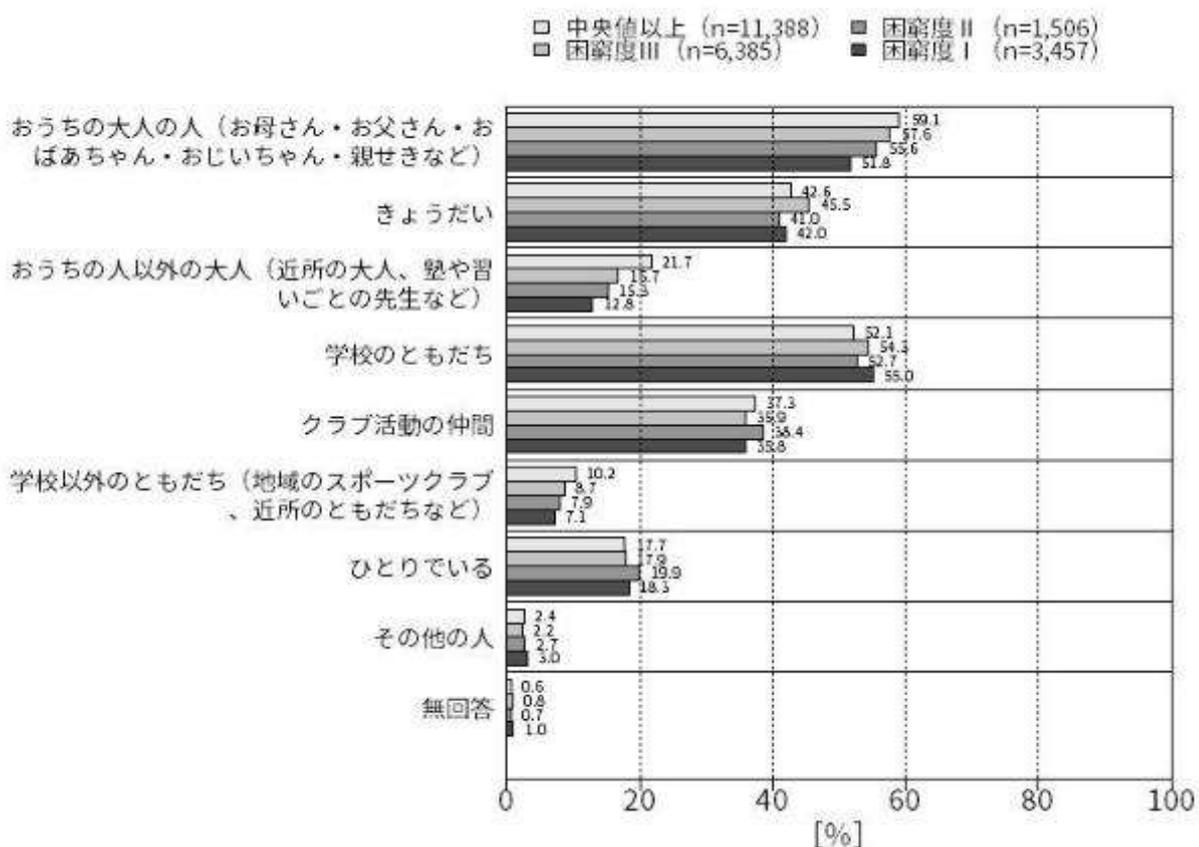


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育」11.6% (中央値以上群に対して、3.6倍)、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」7% (1.5倍)、「スーパーやショッピングモール」7% (1.1倍)となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」31.7% (困窮度Ⅰ群に対して、3.4倍)、「学校 (クラブ活動など)」44.4% (1.5倍)、「コンビニエンスストア」3.2% (1.4倍)が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

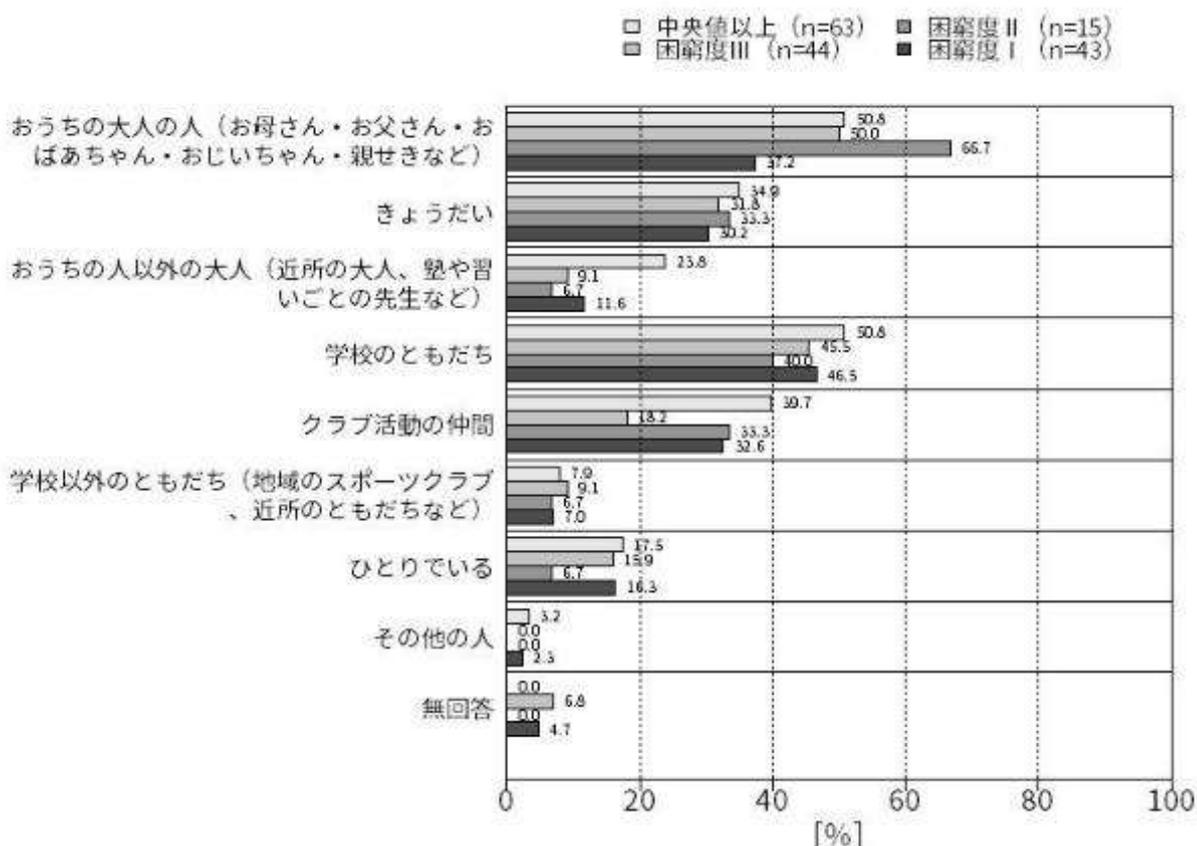
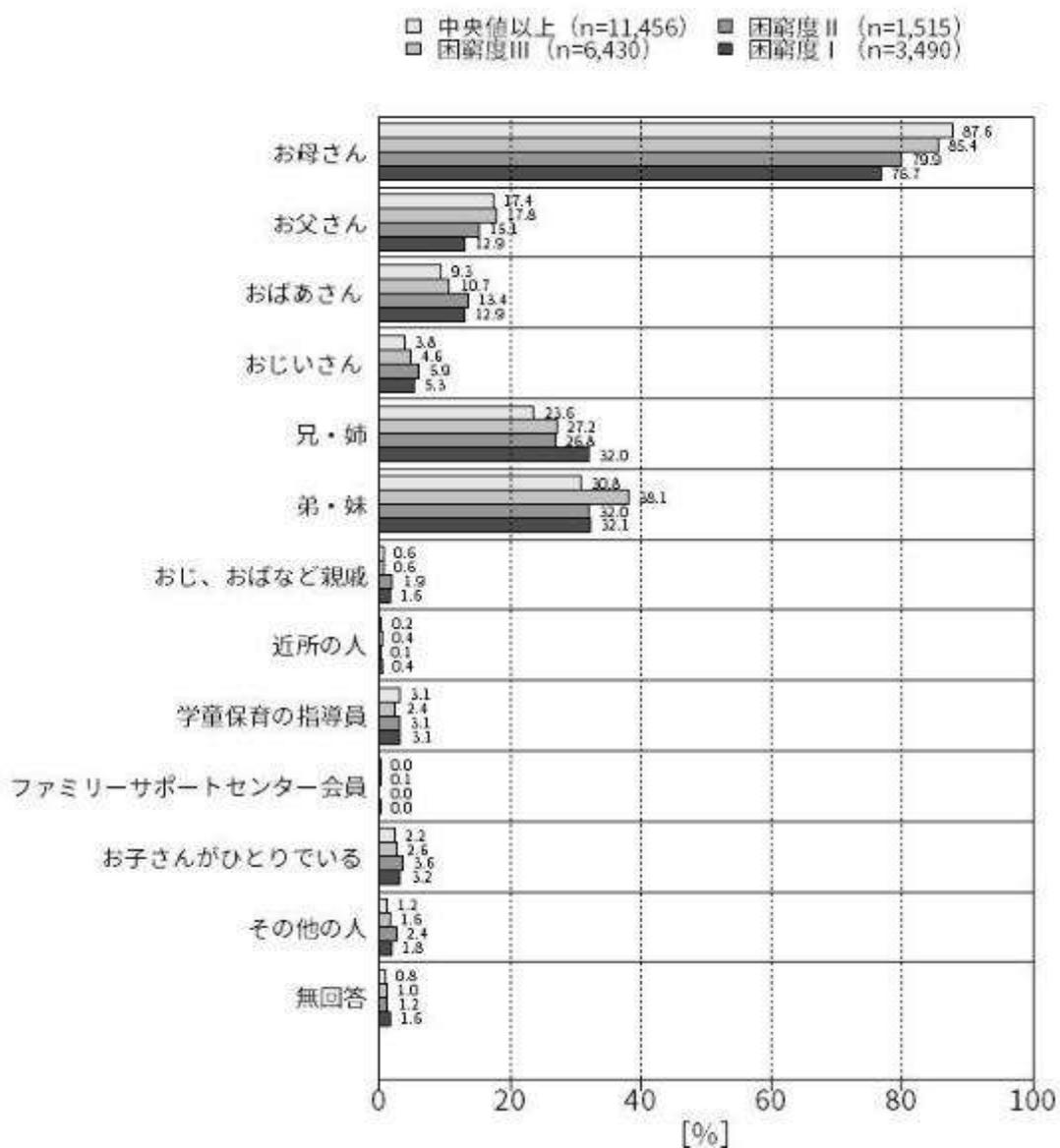


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ひとりである」16.3%（中央値以上群に対して、0.9倍）、「学校のともだち」46.5%（0.9倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」7%（0.9倍）と高く、中央値以上群では「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」23.8%（困窮度Ⅰ群に対して、2.1倍）、「その他の人」3.2%（1.4倍）、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」50.8%（1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



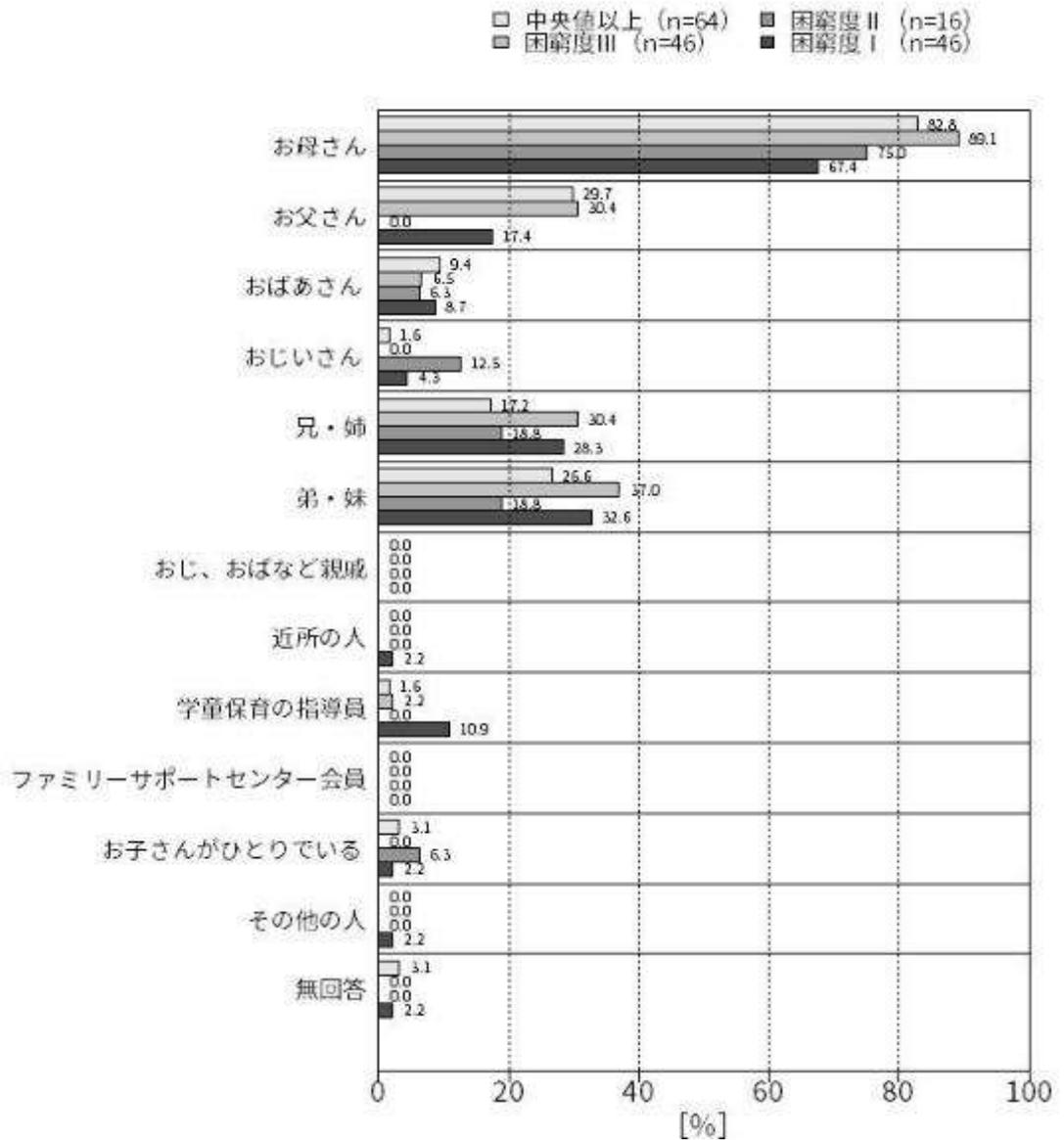
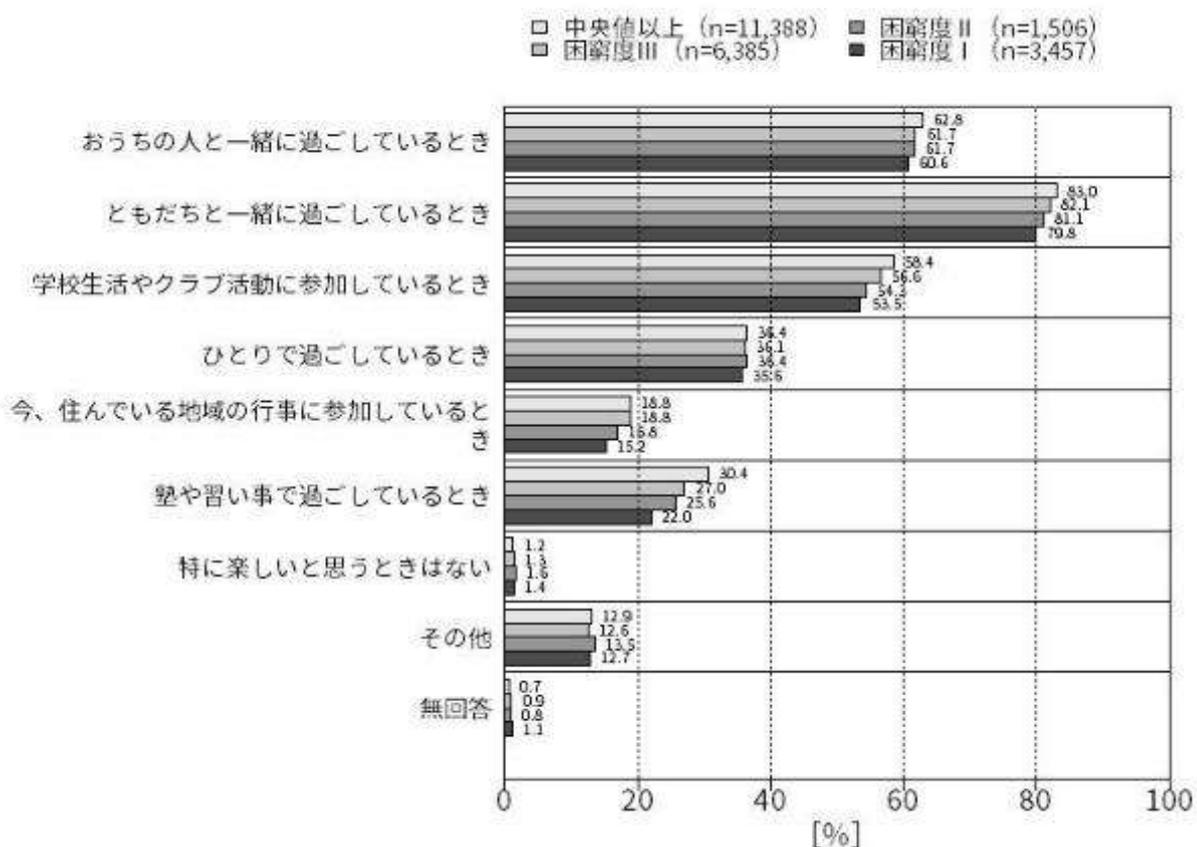


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育の指導員」10.9%（中央値以上群に対して、6.8倍）、「おじいさん」4.3%（2.7倍）、「兄・姉」28.3%（1.6倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

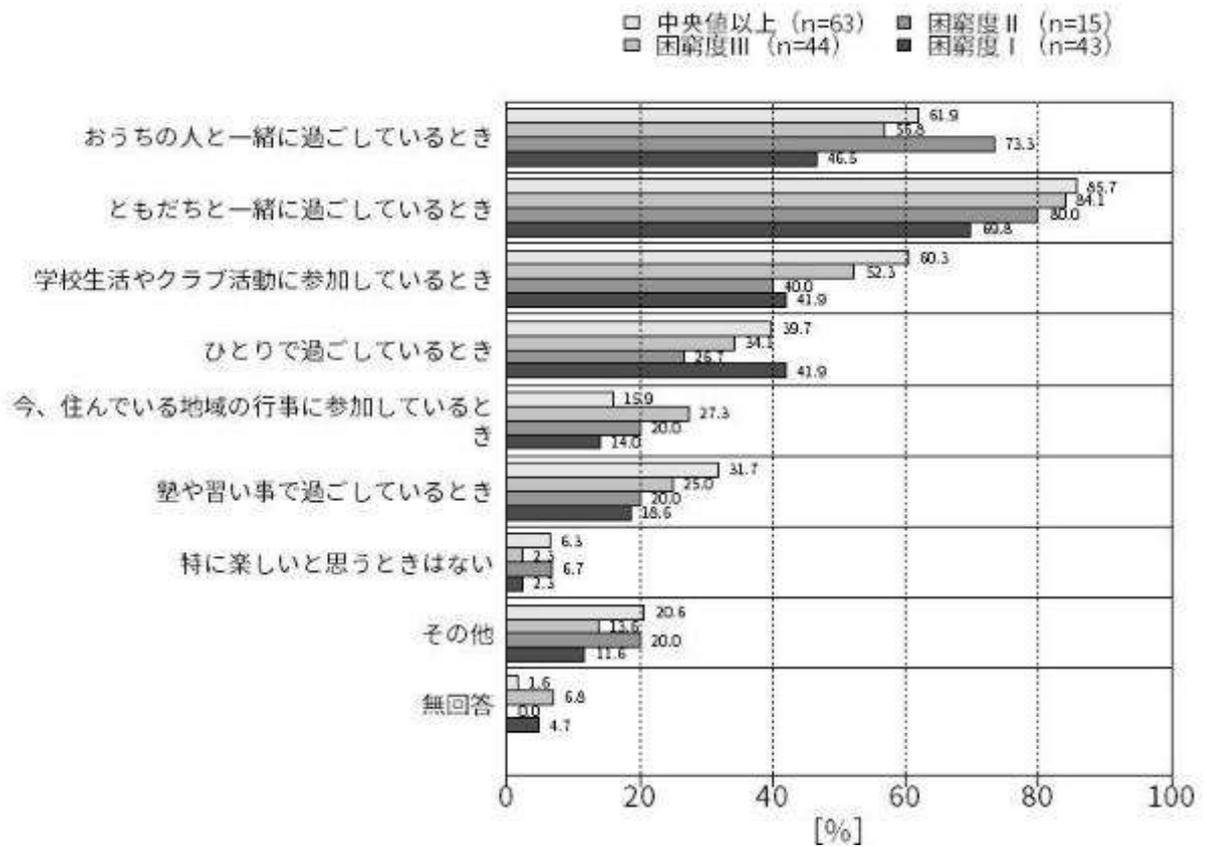
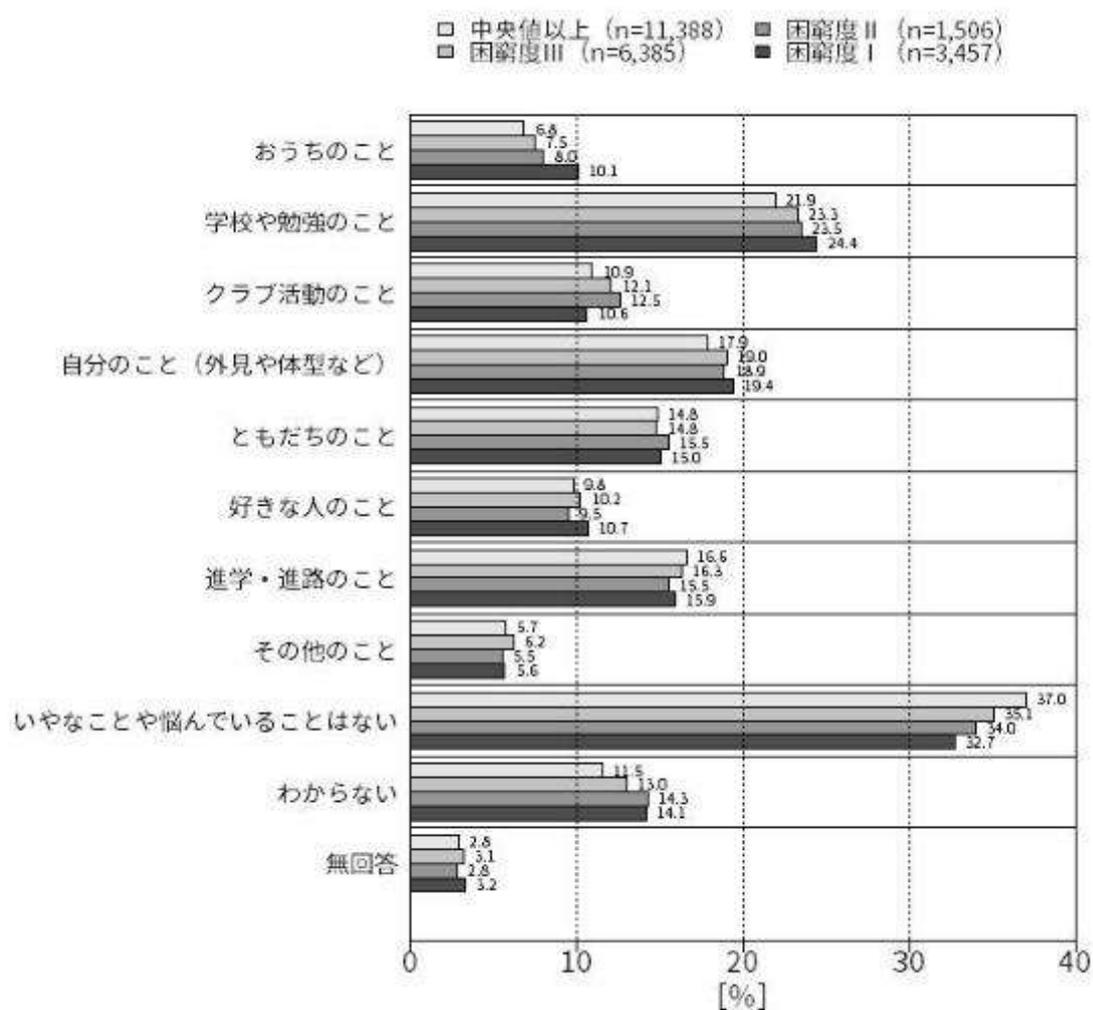


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、特に高いものは見られなかった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



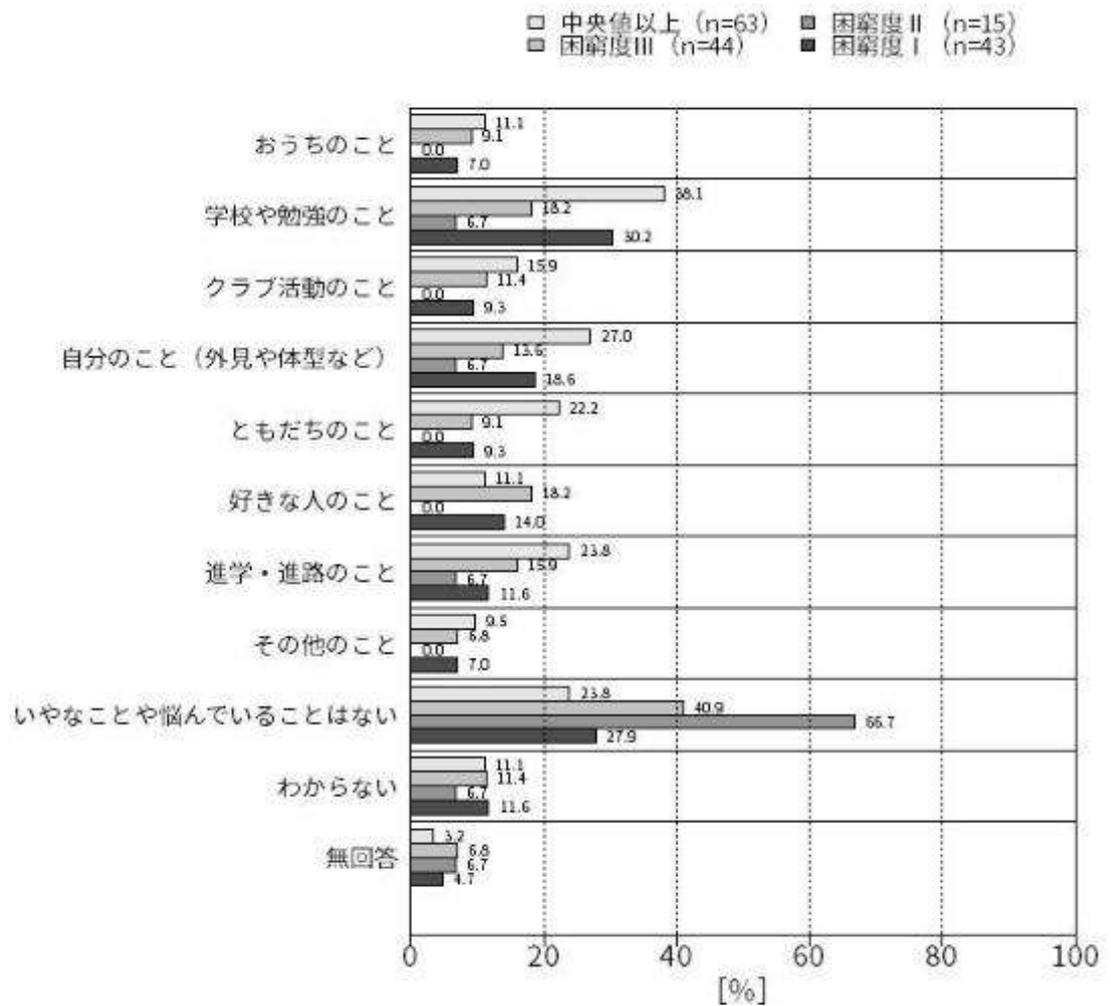
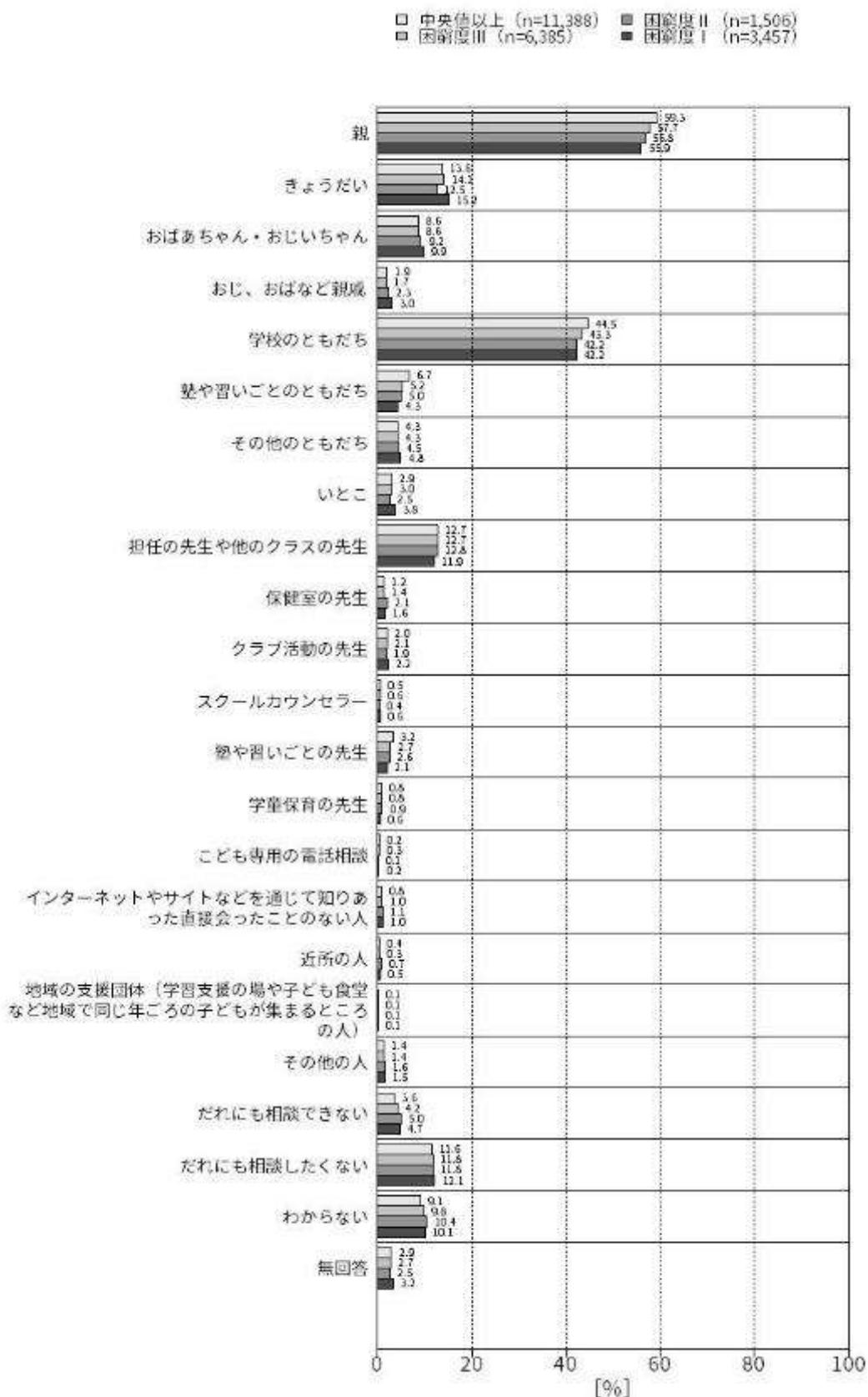


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「好きな人のこと」14%（中央値以上群に対して、1.3倍）、「いやなことや悩んでいることはない」27.9%（1.2倍）、「わからない」11.6%（1倍）が高く、中央値以上群では「ともだちのこと」22.2%（困窮度Ⅰ群に対して、2.4倍）、「進学・進路のこと」23.8%（2.1倍）、「クラブ活動のこと」15.9%（1.7倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



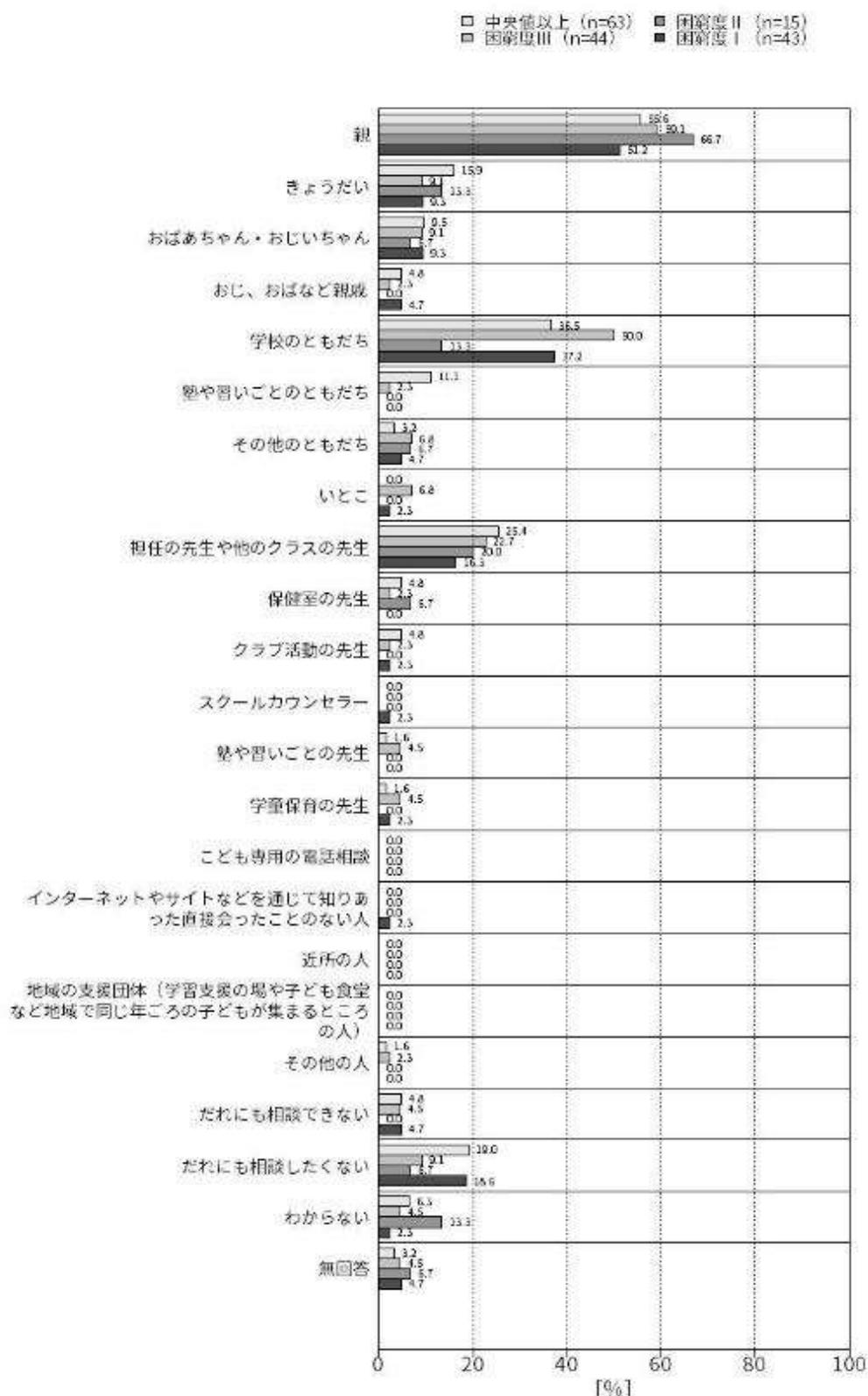
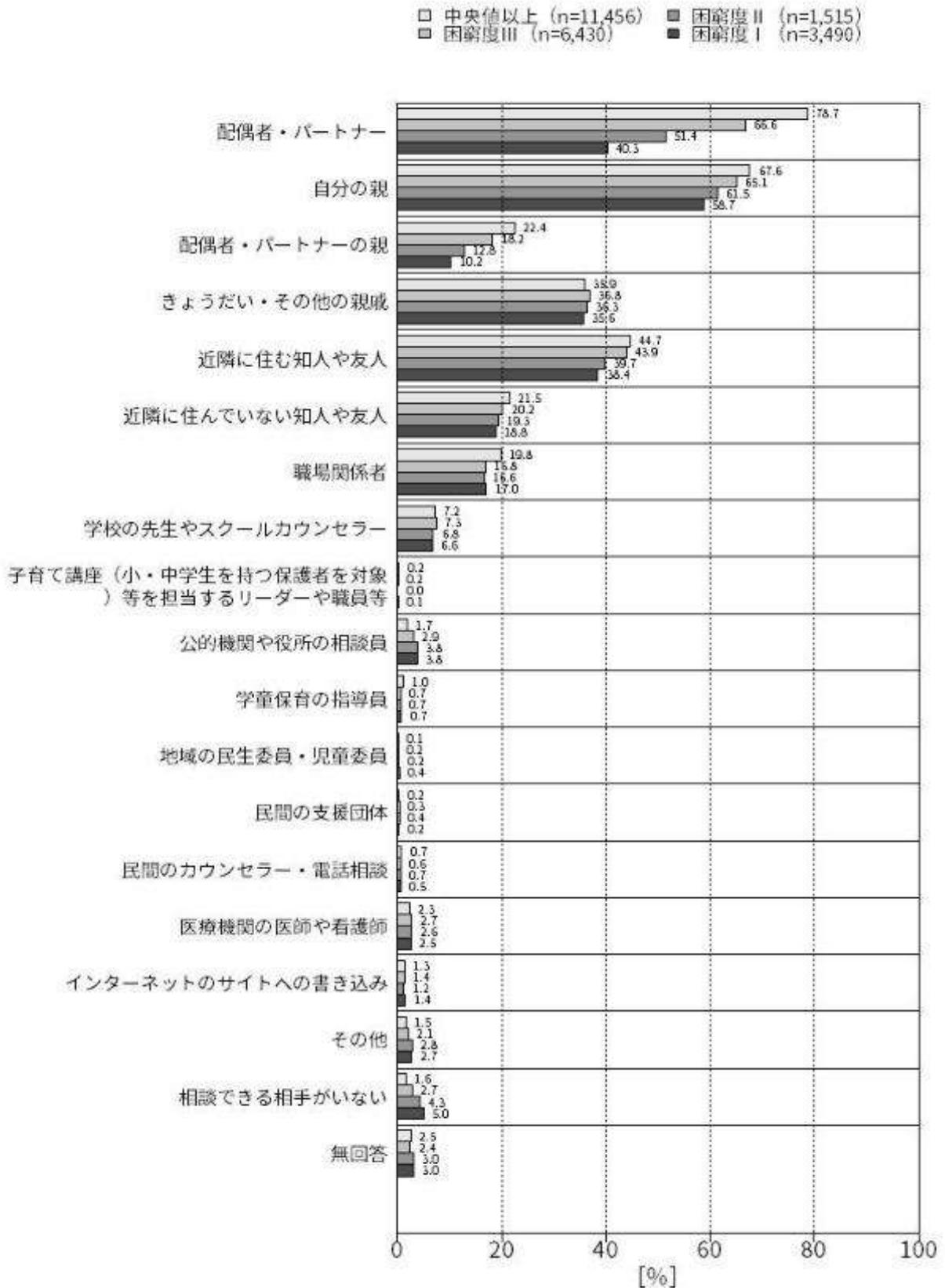


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他のともだち」4.7%（中央値以上群に対して、1.5 倍）、「学童保育の先生」2.3%（1.4 倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



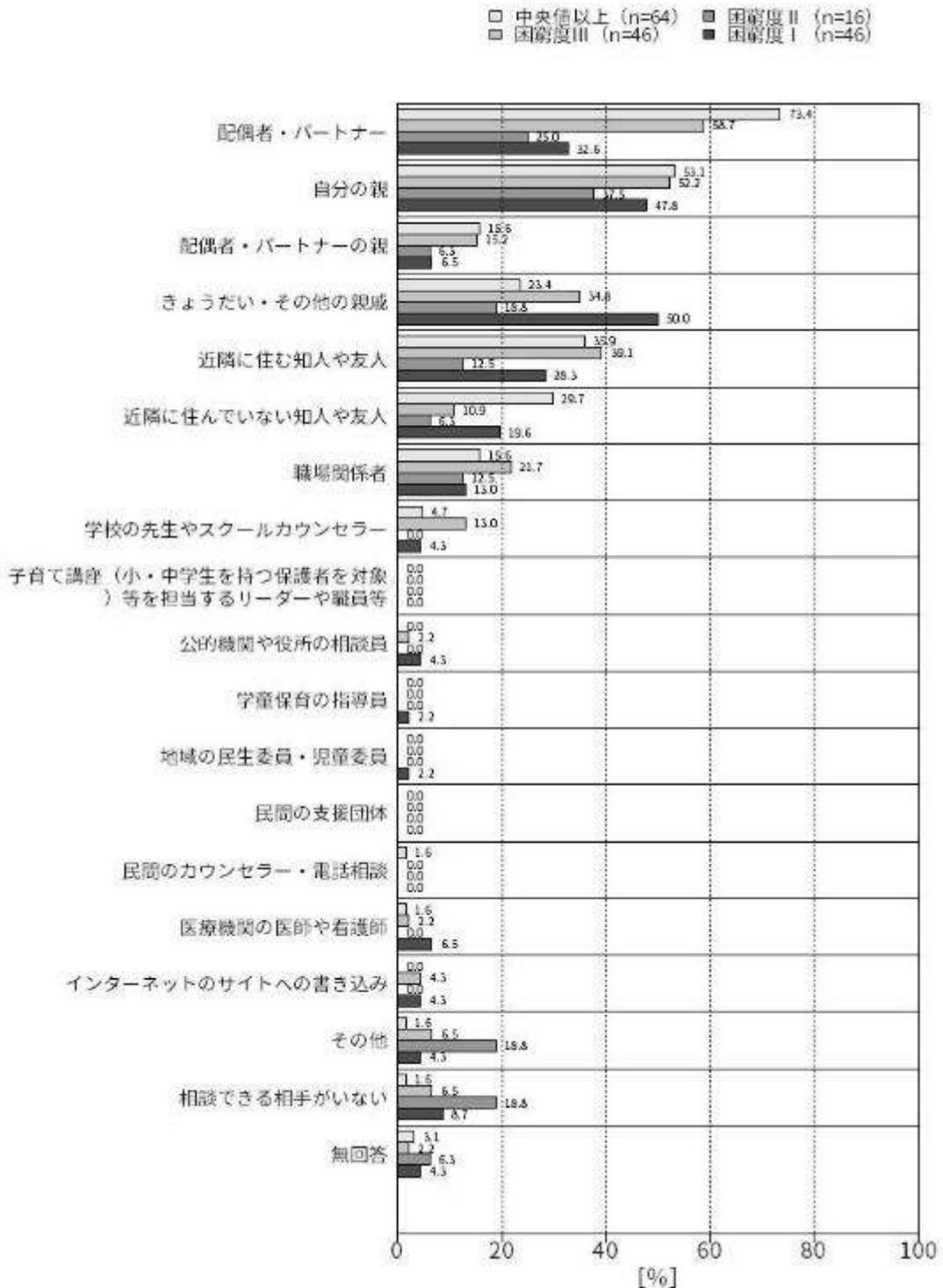
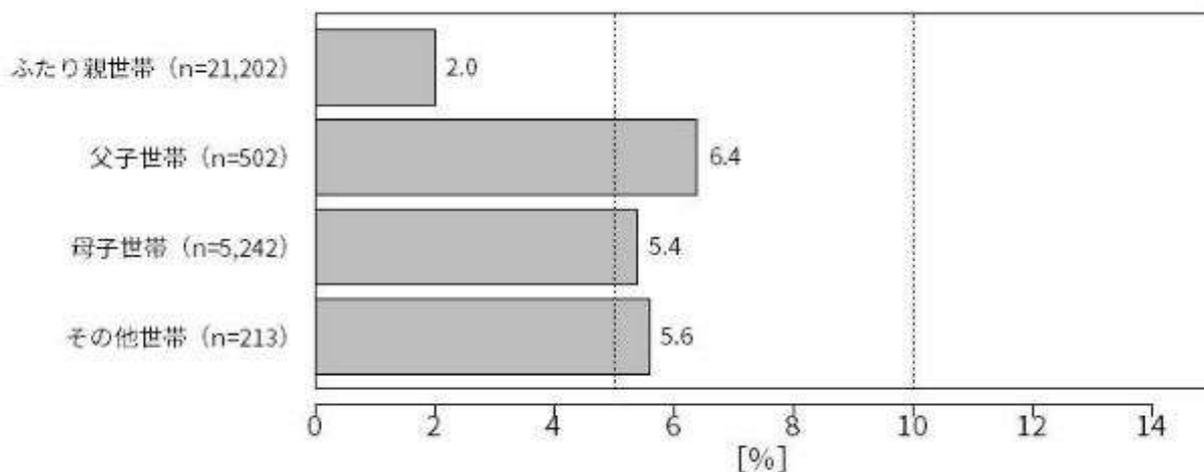


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」8.7%（中央値以上群に対して、5.4倍）、「医療機関の医師や看護師」6.5%（4.1倍）、「その他」4.3%（2.7倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が73.4%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では32.6%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

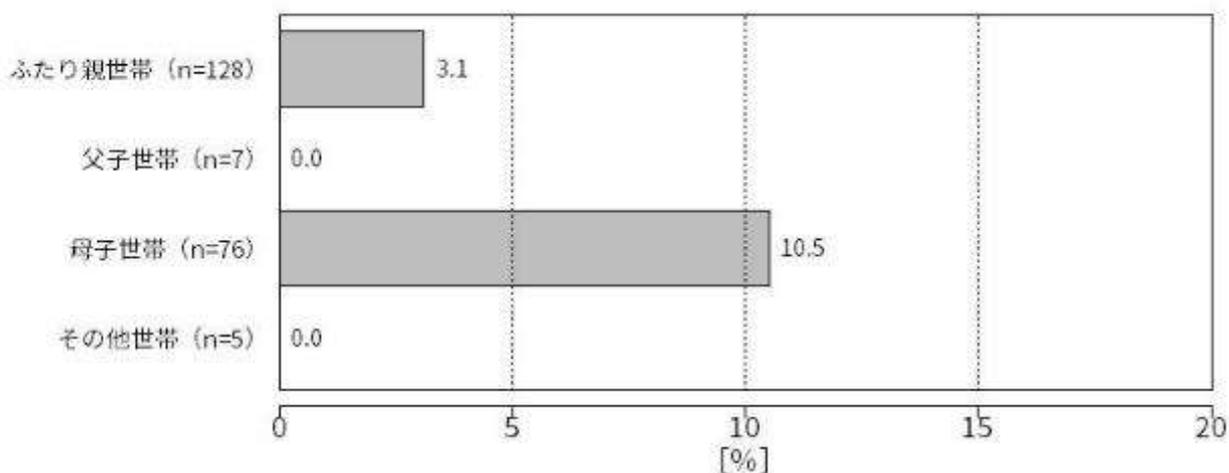


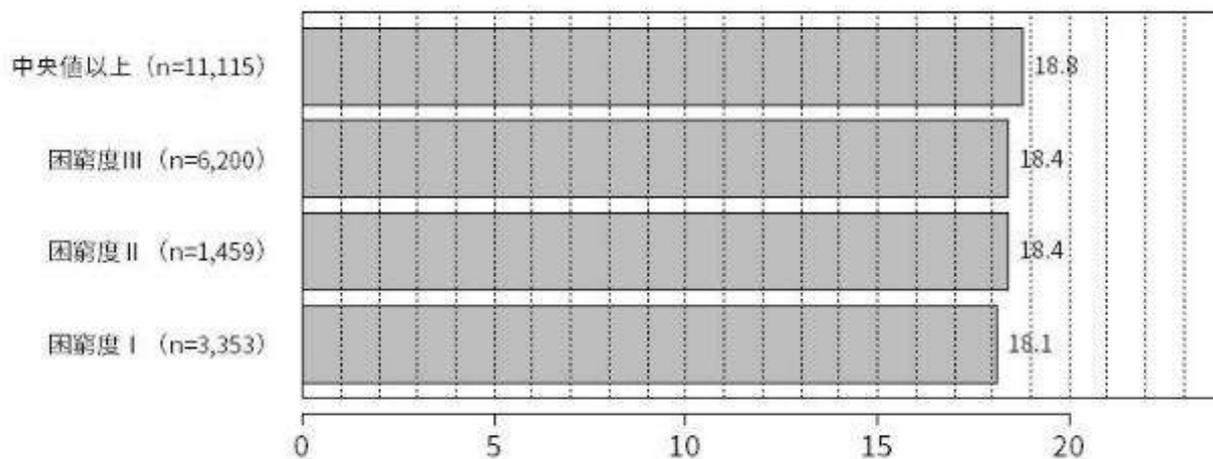
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がない」と回答した人は、ふたり親世帯で 3.1%、父子世帯で該当なし、母子世帯で 10.5%いる。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

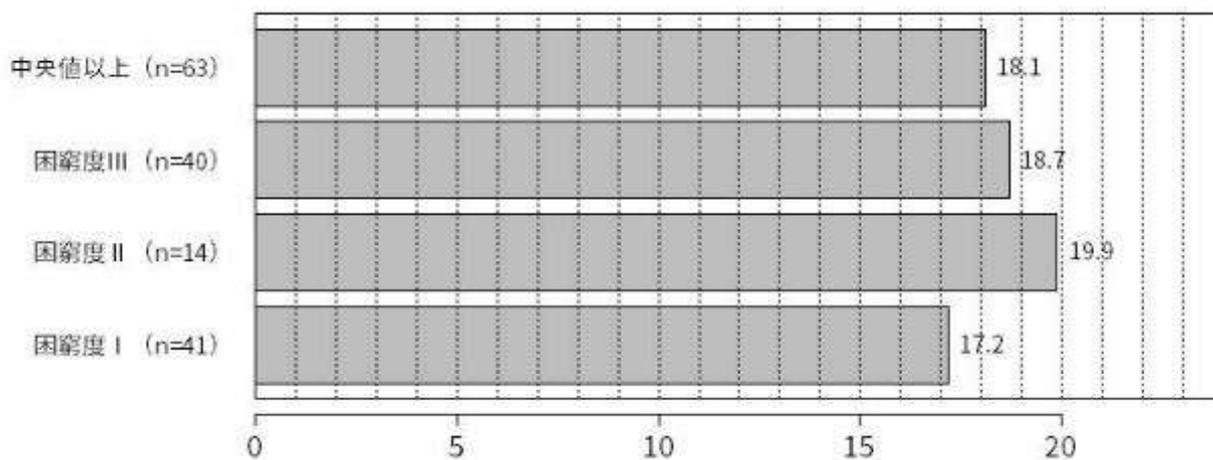


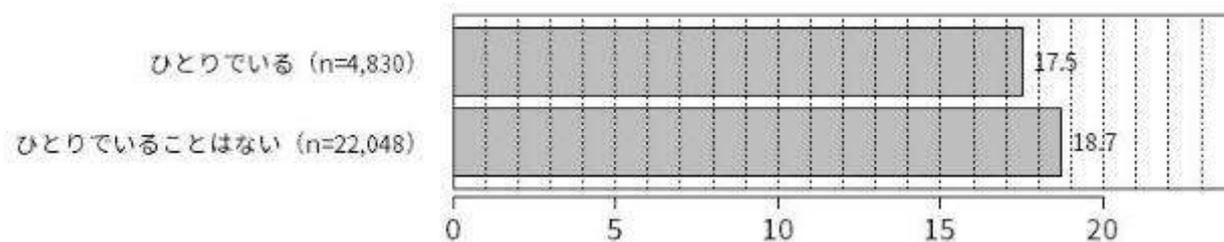
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.1 点、困窮度Ⅲ群で 18.7 点、困窮度Ⅱ群で 19.9 点、困窮度Ⅰ群で 17.2 点である。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー  
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

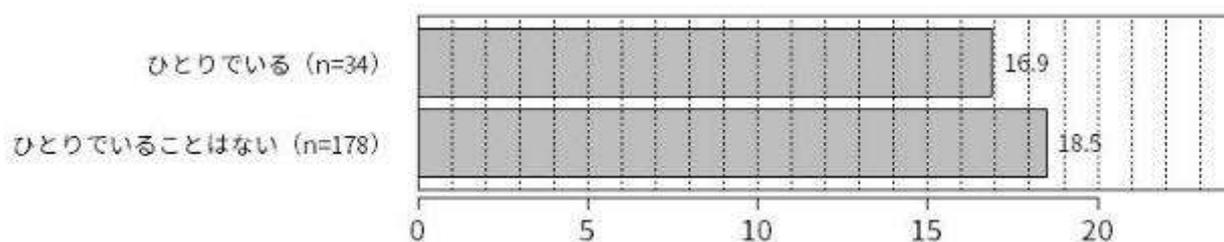


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 16.9 点、ひとりでいることはない子どもは 18.5 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

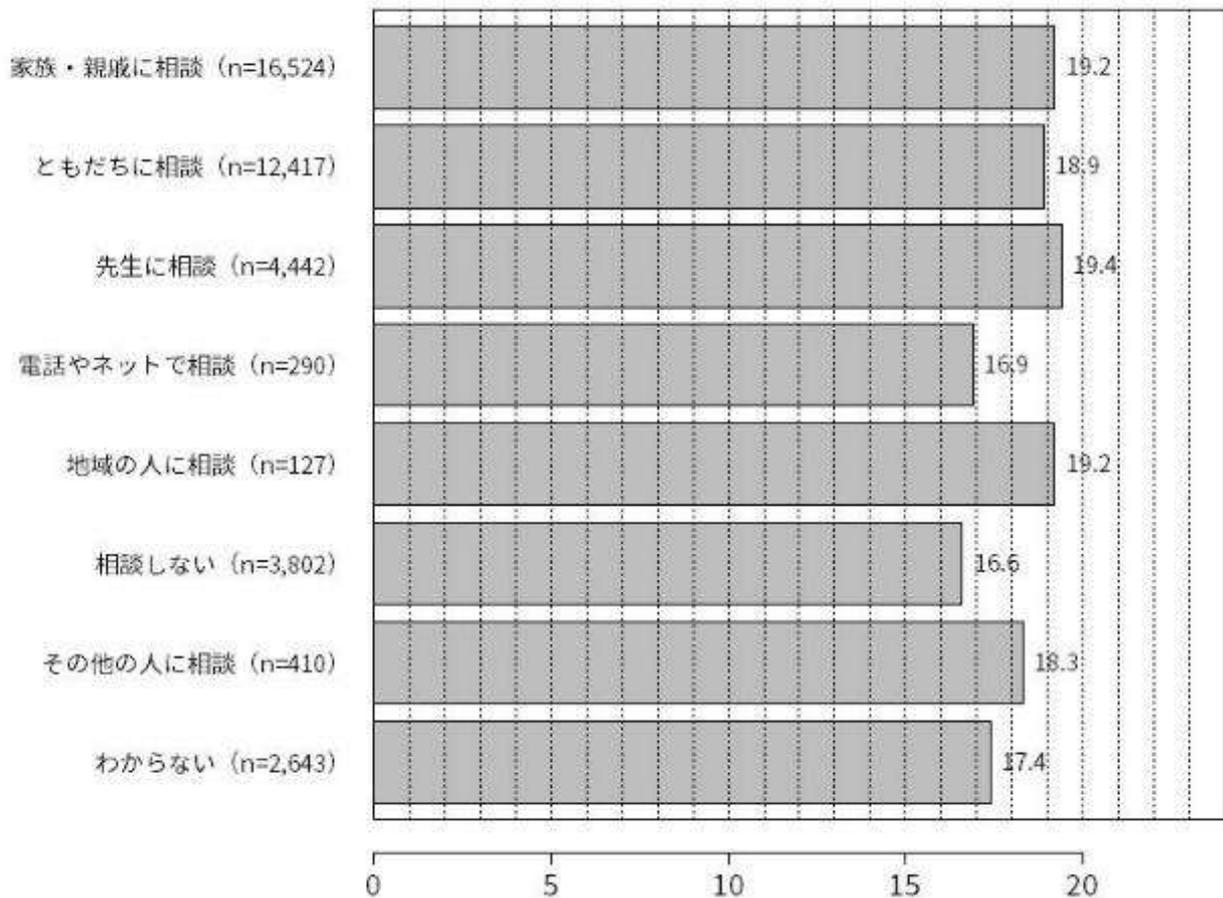
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

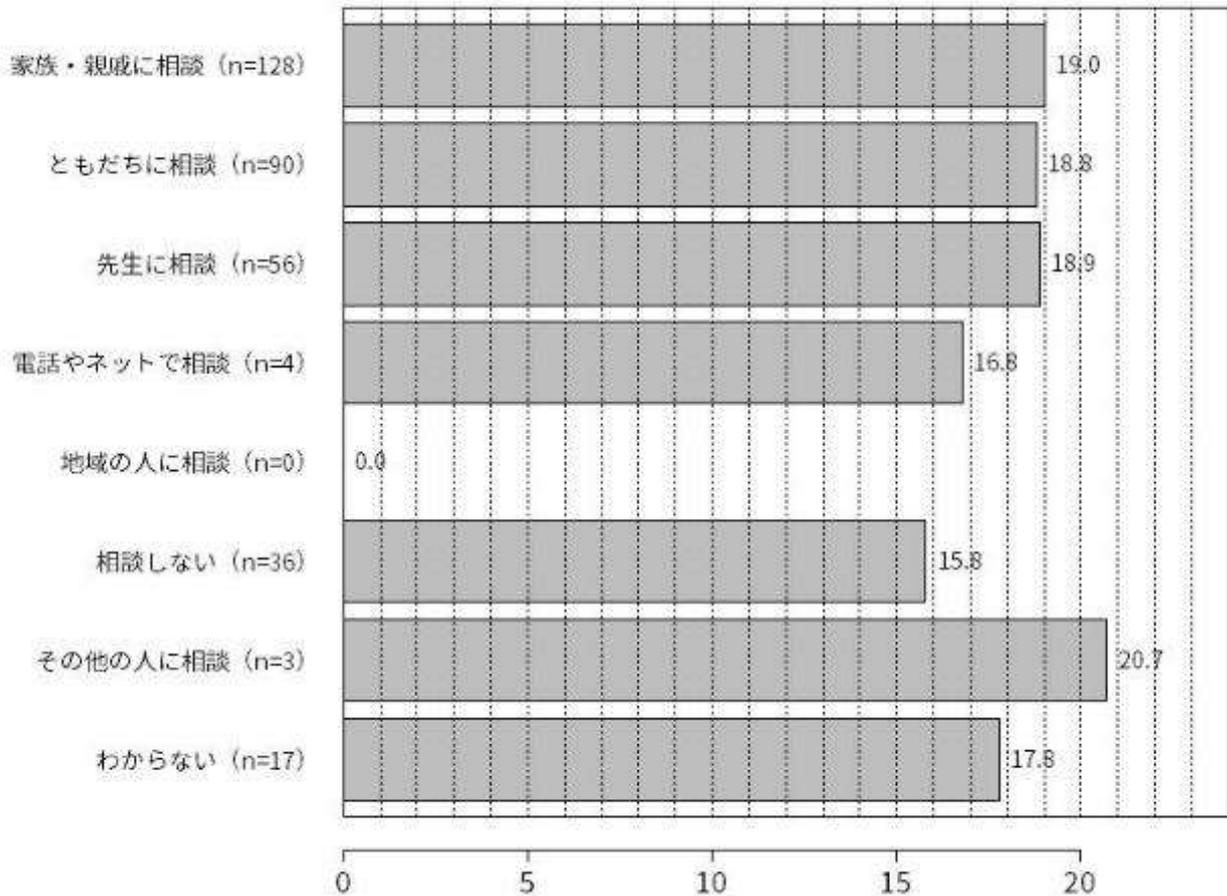


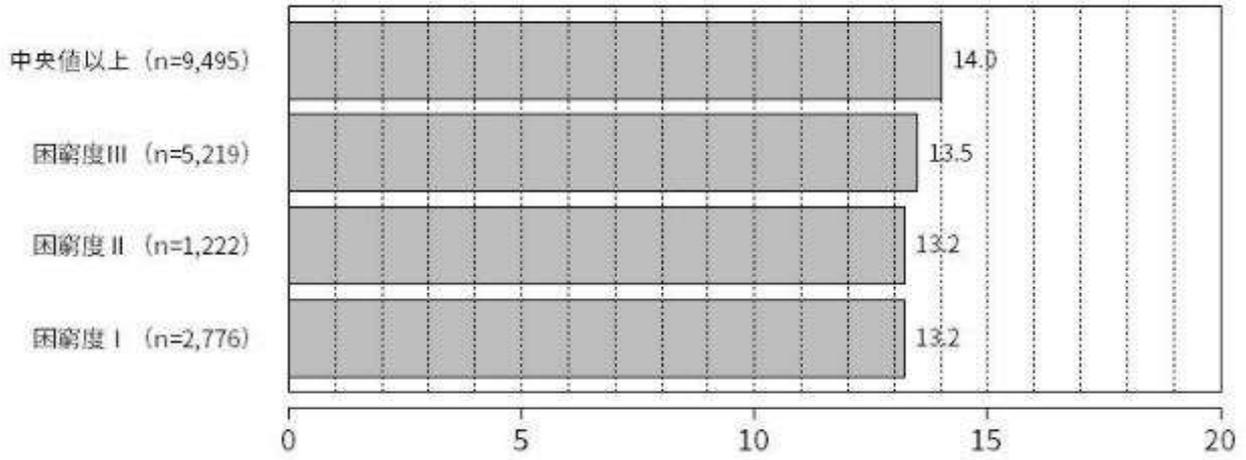
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」15.8点、「電話やネットで相談」16.8点、「わからない」17.8点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

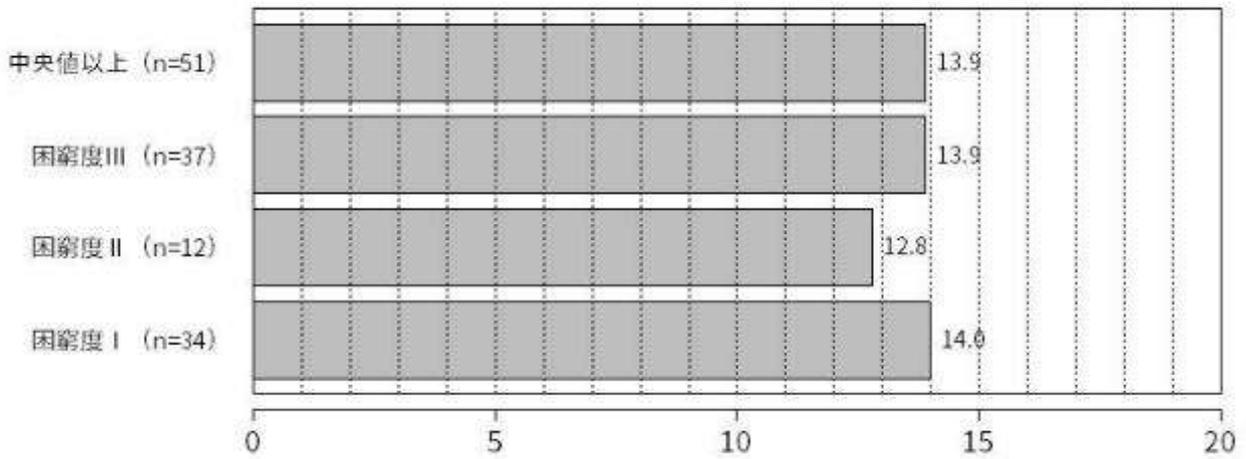


図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 13.9 点、困窮度Ⅰ群で 14.0 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

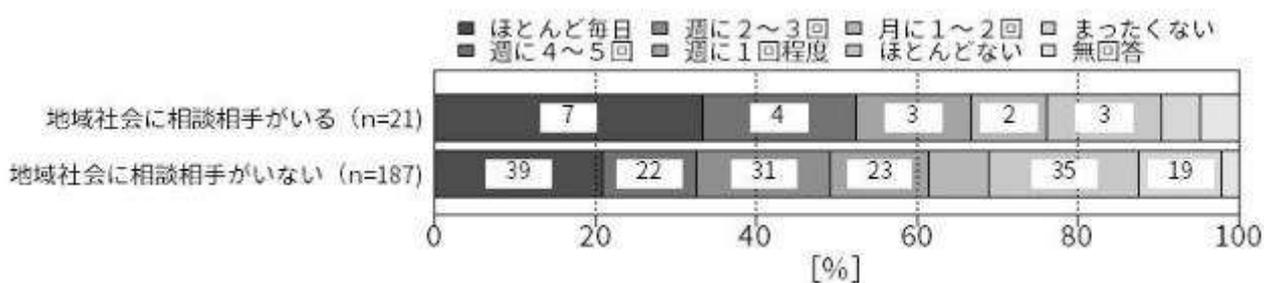


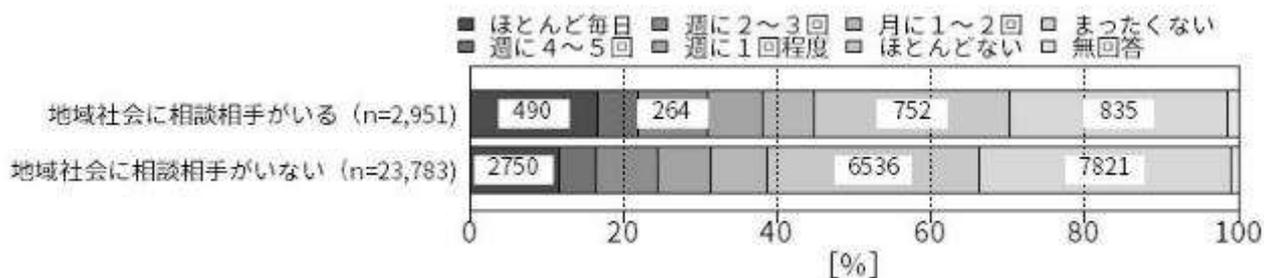
図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (家の手伝いをするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問24 × 子ども票 問10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図283上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

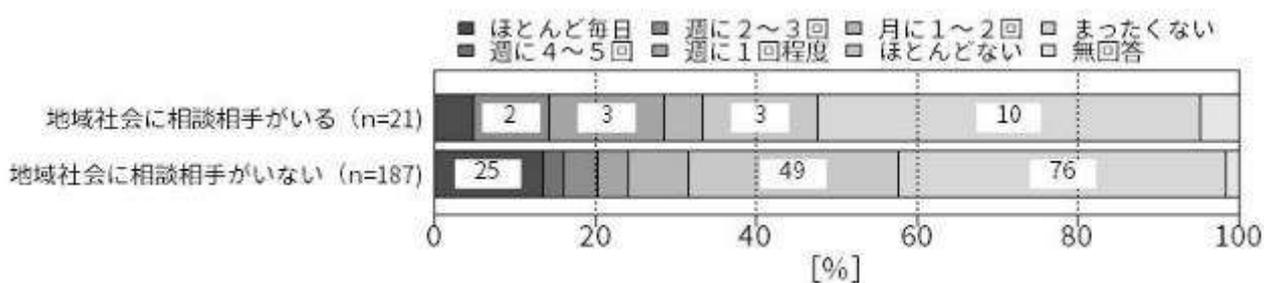


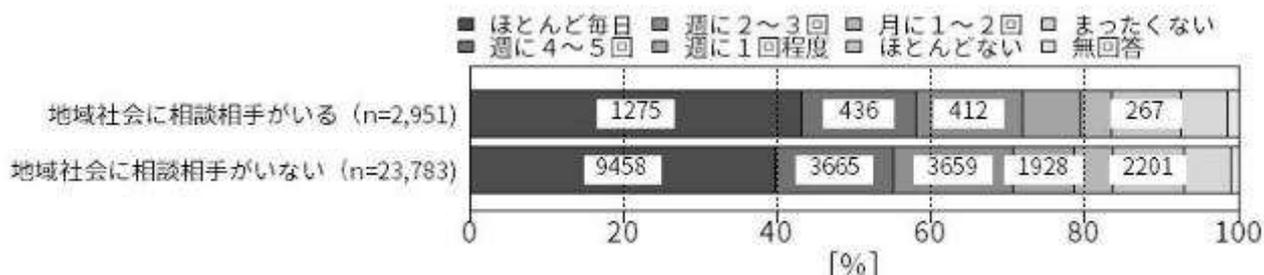
図297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人に宿題をみてもらうか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

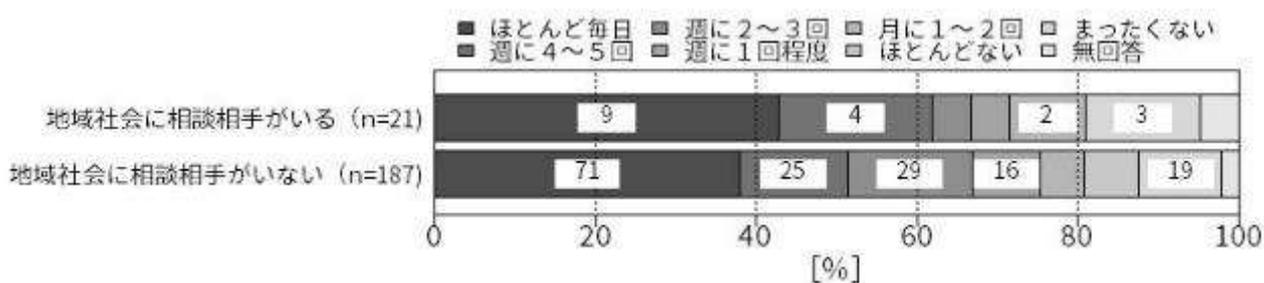


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と学校の話をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

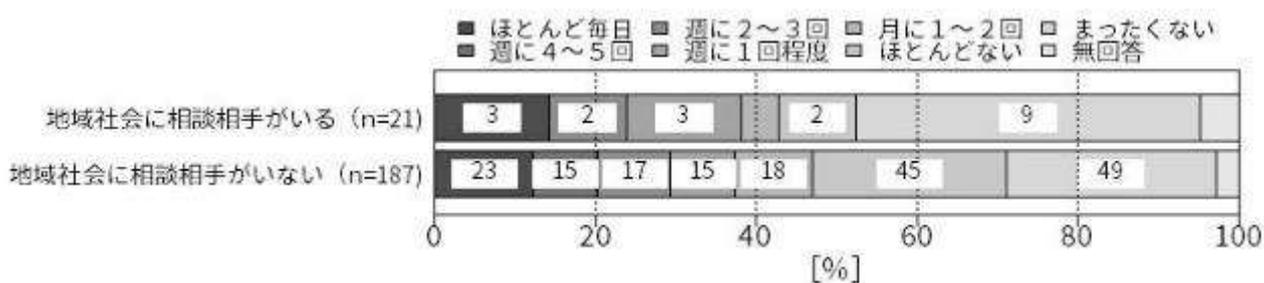


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

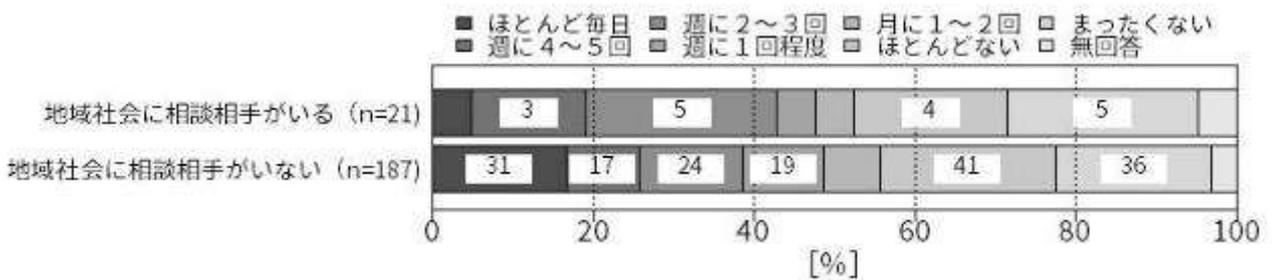


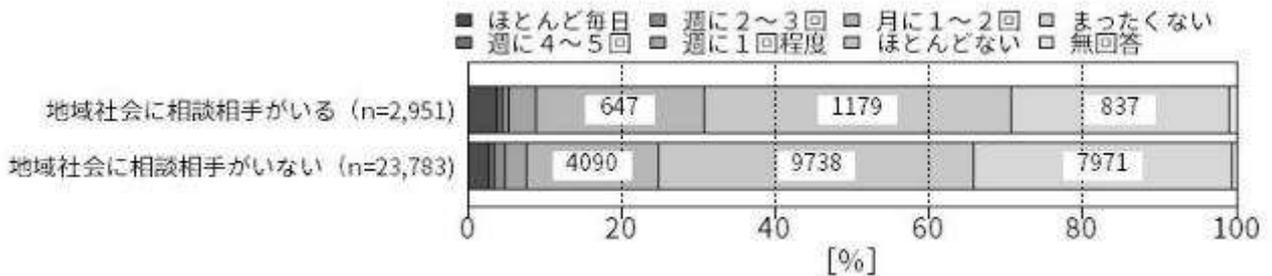
図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10㉑)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

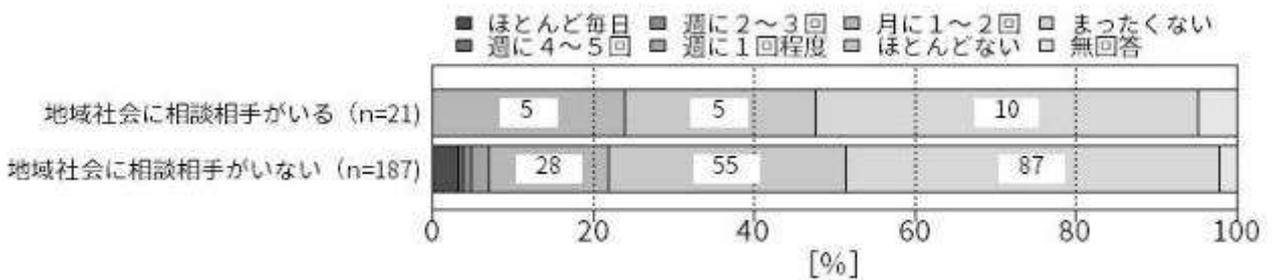


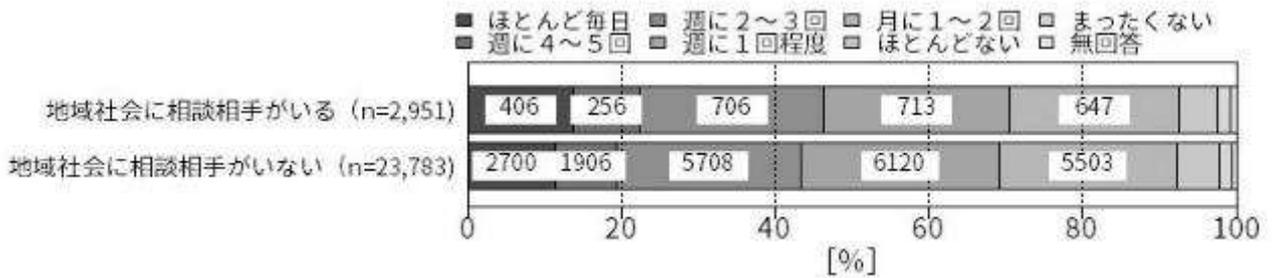
図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人と文化活動 (図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど) をする」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

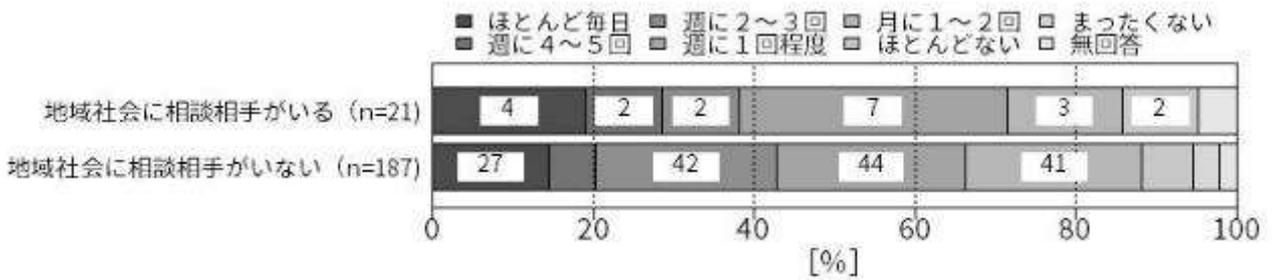


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが地域社会に相談相手がいるかいないかによって「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

## <対人関係に関する考察>

子ども・保護者の社会的な対人関係について、困窮度や世帯構成などの視点から結果を述べる。子どもが放課後に過ごす場所に関し、困窮度が高まるにつれて「習い事」「学校（クラブ活動など）」「公園・広場」の割合が減少した。一方で「学童保育」については困窮度が高まるにつれて割合が増える傾向にあった（中央値以上群では3.2%、困窮度Ⅰ群では11.6%）。

続いて子どもが誰と放課後を過ごすかを見てみると、困窮度の高まりに沿って「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」「学校のともだち」「クラブ活動の仲間」と回答する子どもの割合が低くなる傾向にあった。「ひとりでいる」と答えた割合は困窮度Ⅱ群を除きいずれの群でも16%前後であったが、一方、自分の子どもが放課後ひとりで過ごしていると考えている保護者は困窮度を問わず4%程度であった。すなわち放課後の過ごし方で保護者の認識と実態とがかい離している状況が確認された。

悩んでいることを困窮度の視点から見ると、困窮度と悩んでいることとの関係性に大きな違いは見られなかったが、その悩んでいることを相談する相手として、「親」「きょうだい」を挙げる割合は、中央値以上群では71.5%に対し、困窮度Ⅰ群では60.5%だった。また「担任の先生や他のクラスの先生」と回答した割合は、困窮度が高まるにつれて低下し、中央値以上群では25.4%であったが、困窮度Ⅰ群では16.3%だった。

保護者の相談相手や相談先においては、困窮度が高まるにつれて「配偶者・パートナー」「配偶者・パートナーの親」「職場関係者」と回答する割合が減少し、「相談できる相手がいない」と回答する割合が増加する傾向にあった（中央値以上群では1.6%、困窮度Ⅰ群では8.7%）。

また世帯種別に関しては、母子世帯では「困ったときの相談相手がいない」と回答する割合が10.5%と世帯構成別の中で最も高かった。

地域社会に相談相手がいる場合はいない場合に比べて、家の手伝い、学校の話「ほとんど毎日する」の割合が高かった。



## B. 5歳児保護者調査報告書

### 1. 回答者の属性

#### 5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市浪速区では、「お母さん」が83.2%、「お父さん」が4.0%、「おばあさん・おじいさん」が0.4%、「おじ、おばなど親戚」が該当なし、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が該当なし、「その他の人」が該当なし、「無回答」が12.4%であった。

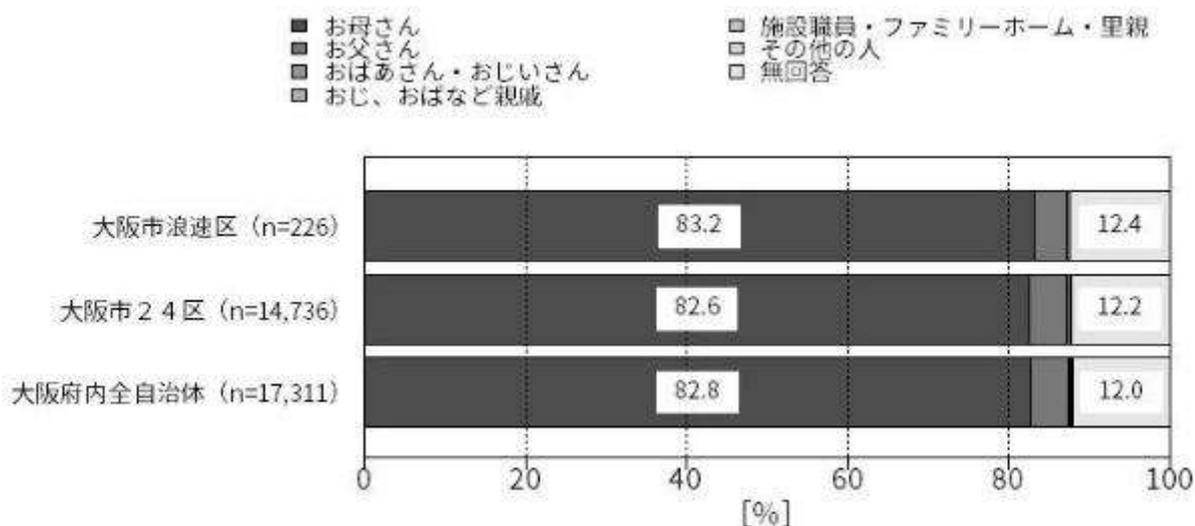


図 1. 回答者の続柄

### 2. 単純集計

#### (1) 経済状況

#### 5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市浪速区では、「350～400万円未満」が8.4%、「250～300万円未満」が8.0%、「400～450万円未満」が8.0%、「100～150万円未満」が6.2%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)

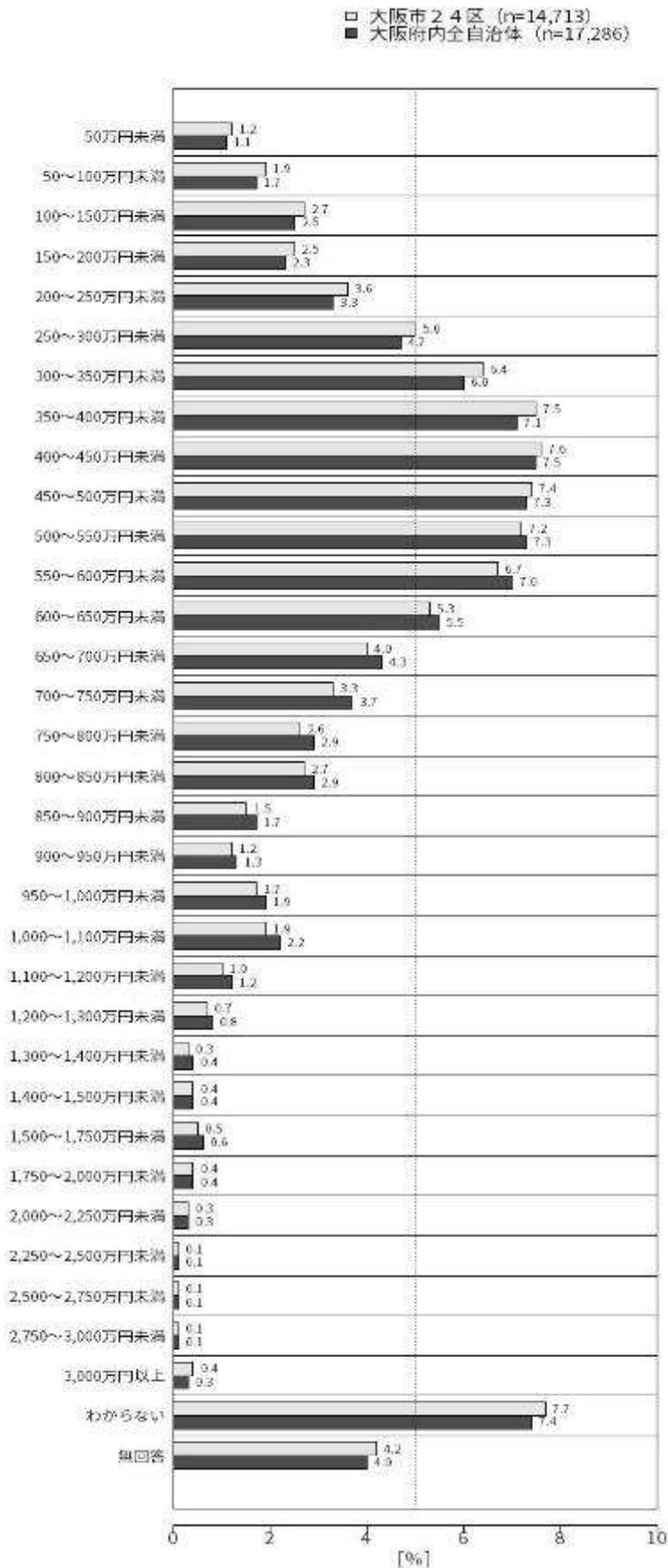


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 大阪市5歳児保護者困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0

### 5歳児-6 経済的な理由による経験

問6 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市浪速区では、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が52.2%、「趣味やレジャーの出費を減らした」が45.6%、「食費を切りつめた」が39.4%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が38.1%、「友人・知人との外食を控えた」が37.6%の順に高くなっている。

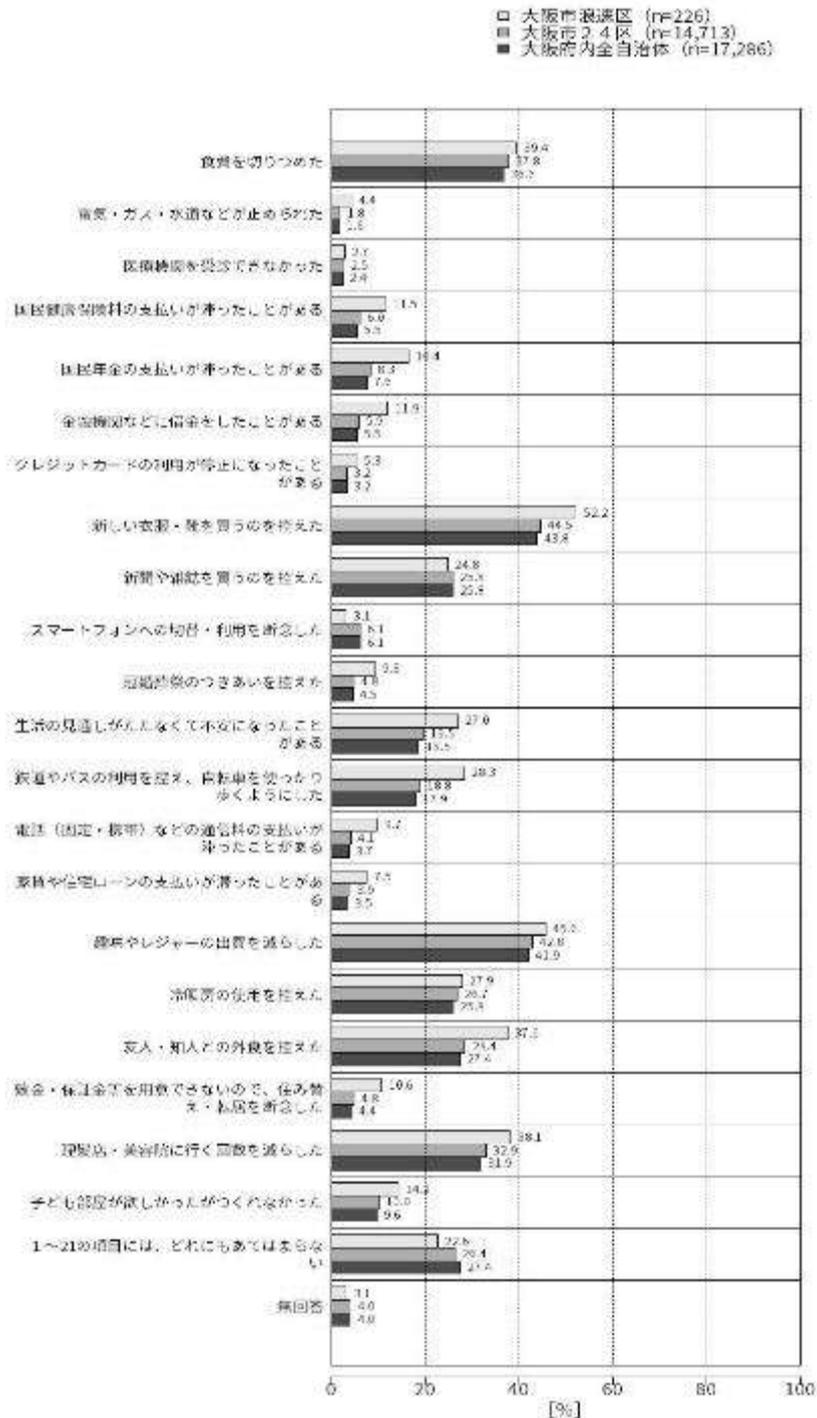


図 3. 経済的な理由による経験

5歳児-29 経済的な理由による経験

問 29 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

(おおむね1年の間でお考えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

大阪市浪速区では、「1～13の項目には、どれにもあてはまらない」が54.9%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が21.7%、「子どもを習い事に通わせることができなかった」が19.9%、「子どもを学習塾に通わせることができなかった（通信制の幼児教育教材を含む）」が13.7%、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が0.4%、「子どもを遠足へ参加させることができなかった」が0.0%、「子どもをクラブに参加させられなかった」が3.1%、「子どもを学習塾に通わせることができなかった（通信制の幼児教育教材を含む）」が13.7%、「子どもの誕生日を祝えなかった」が1.1%、「子どもにお年玉をあげることができなかった」が4.1%、「子どもの保育所（園）、幼稚園などの通園施設の行事などに参加することができなかった」が0.4%、「子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった」が1.1%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が21.7%、「1～13の項目には、どれにもあてはまらない」が54.9%、「無回答」が10.6%の順に高くなっている。

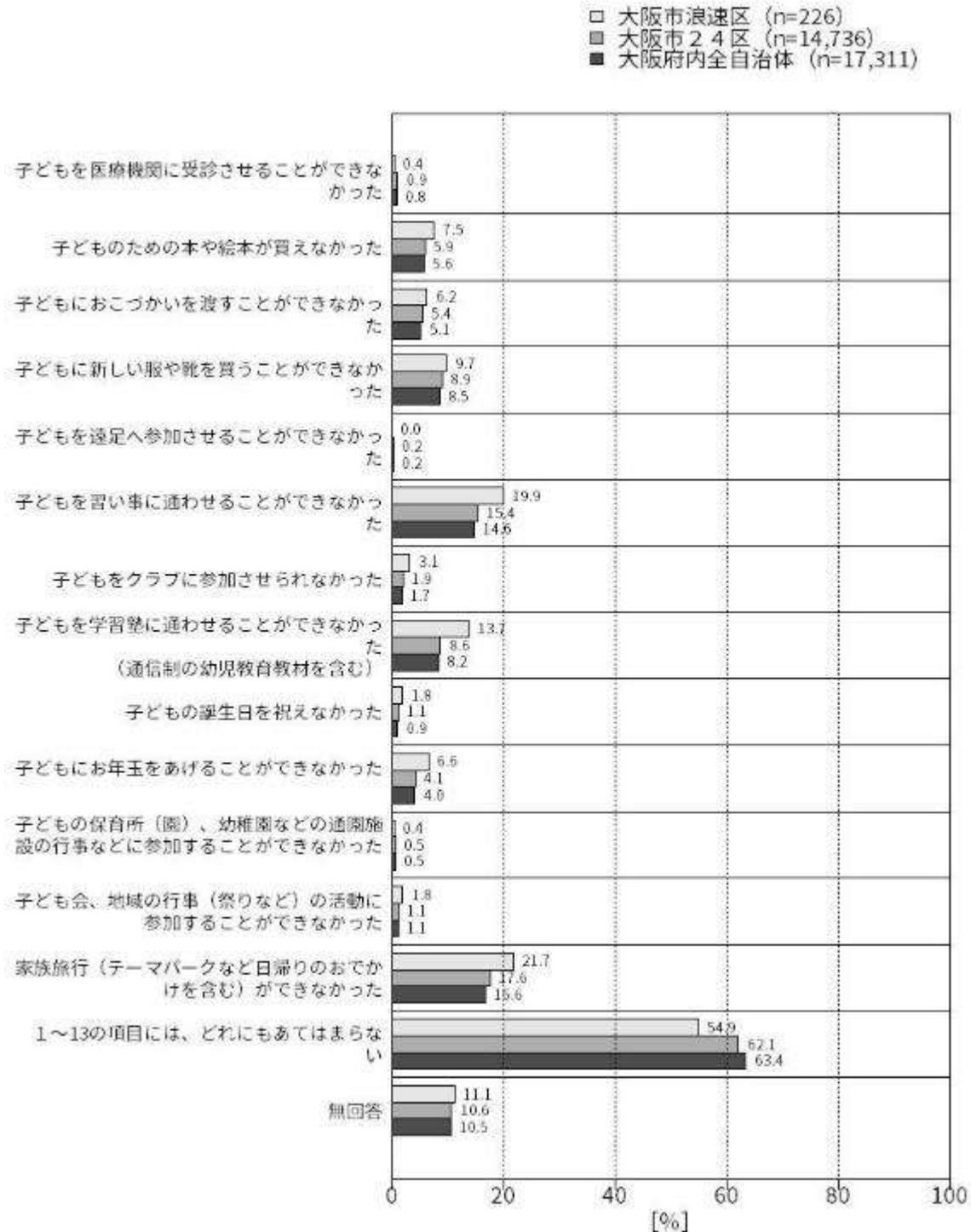


図 4. 子どもへの経済的な理由による経験

### 5 歳児-5-1 家計状況

問5(1) 前年(2015年)の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください

大阪市浪速区では、「貯蓄ができています」が23.9%、「赤字でもなく黒字でもない」が33.2%、「赤字である」が33.2%、「わからない」が9.3%、「無回答」が0.4%であった。

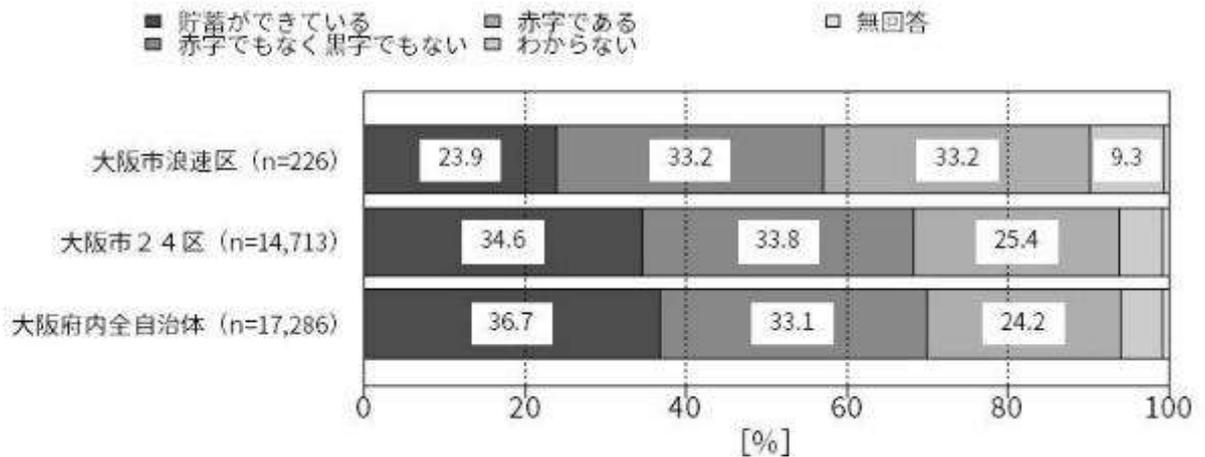


図5. 家計状況

### 5 歳児-5-2 赤字の場合の対処

問5(2) 問5(1)で「2. 赤字である」と答えた方におたずねします。赤字の場合はどのようにしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市浪速区では、「貯金、預金のとりくずし」が66.7%、「親や親族などからの仕送り」が8.0%、「金融機関等からの借入」が17.3%、「その他」が8.0%、「無回答」が該当なしである。

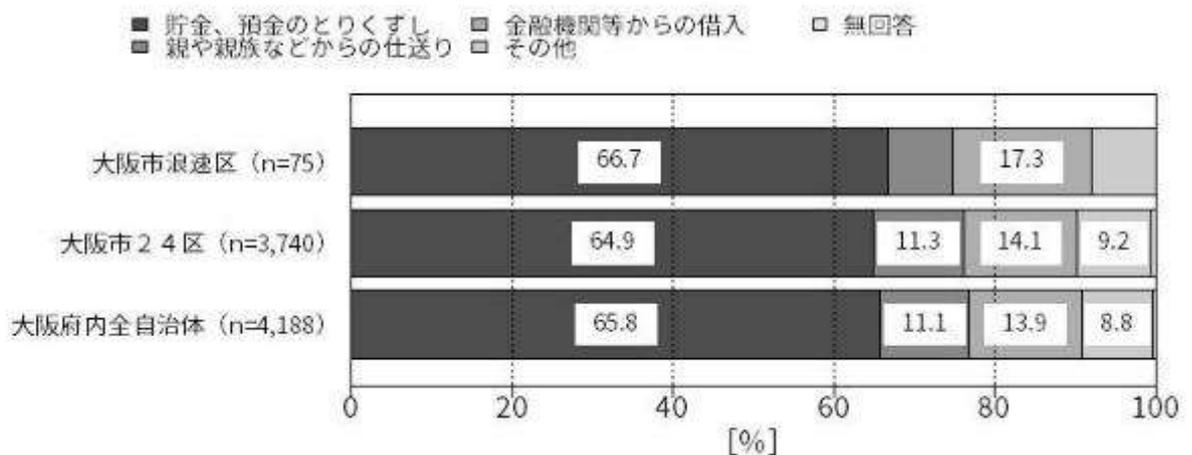


図6. 赤字の場合の対処